

私は、六論会を代表しまして、認第2号令和6年度野田市一般会計から認第7号令和6年度野田市下水道事業会計までの各会計の決算認定について、全てに賛成する立場で討論させていただきます。

令和6年度の市の予算は、厳しい財政状況の中、事業見直しと経常収支比率の改善に加え、財源確保、公共施設の老朽化への対応、原油価格、物価高騰への対応、総合計画及び実施計画の推進、行政改革大綱及び行政改革大綱実施計画の推進を基本的な考え方として編成されており、子供から高齢者まで幅広い市民要望への対応が図られたものとなっております。

一般会計決算については、歳入決算額が630億8,581万1,846円、これに対する歳出決算額は609億4,666万7,395円となっており、予算に対する執行率は歳入が96.7%、歳出が93.4%であり、適正な執行がなされたものと認められます。

まず、歳入については、自主財源及び依存財源別に分類すると、構成比率は自主財源49.07%、依存財源50.93%となっており、前年度と比較して自主財源が0.72ポイント低下している。今後は、課税標準額の段階別納税義務者数等のデータをいただき、注視していきたいと思います。

自主財源の根幹をなす市税を増やす対策としては、働き手の方に野田市に住んでいただくこと、二つ目に野田市内に雇用先を作ること、そして土地、建物、人を含め野田市の価値を上げることが必要不可欠となってきます。よって、新規企業誘致及び雇用の創出の観点から関宿北部地区土地区画整理事業や、駅前再開発による経済活性化及び居住環境の向上等の観点からの各駅周辺土地区画整理事業に期待したいと思います。

次に、歳出についてですが、詳細については決算審査特別委員会において各委員が評価されていましてので省略させていただきます。社会保障関係費が年々増加し、物価の高騰、賃金引上げ、処遇改善の実施などにより、経常経費も増加する中、老朽化した公共施設は、現在長寿命化対策で対応していますが、いつかは再建せざるを得ないときが来ますので、令和6年度の経常収支比率95.3%を少しでも下げ将来の支出に対応できるようお願いしたい。

また、2021年4月に創設された重層的支援体制整備事業は、市全体での包括的な相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援というように、今までの縦割り行政から、三つの支援体制づくりを一体的に行うことで、新たな機能のた

めの交付金を受けることができ、またこの事業を一体的に行うことで事業費の圧縮にも貢献できるよう重層的支援体制整備事業のさらなる運営をお願いしたい。

今回の道路管理費の中で、防草シート敷設工事費が新規計上されました。詳細は、防草シート敷設工事費と防草シートの耐用期間の除草委託料とを比較して、費用を少しでも抑えられる防草シートを張ることにしたとの内容でした。この例のように、どんな事業においてもその担当課又は担当係が、その事業の効果検証を2～3年で行うことで、そのスパンも短く、その事業の継続、変更、廃止、次の事業への展開等への対処が早いことが、予算の節約、費用対効果に良い結果をもたらします。これからも事業見直し、業務改善、効率化による経常経費の削減、新たな財源確保に向けて取り組むなど、より健全な財政運営に努められたい。そして、令和8年度予算において生かしていただきたい。

最後に、必要な一般財源の確保が厳しい状況の中で、子供たちへの投資や教育環境の充実、市民の安心安全の確保に資する事業が予定どおり実施されており、適正な予算執行であると認められ、評価いたします。

また、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、水道事業会計、下水道事業会計についても、それぞれの目的に沿った適切な予算執行であると認め、全ての決算認定について賛成といたします。